

世界的にも例を見ない超高齢社会において、様々な活動を通じて、社会に参画していきたいと思う人が少なからず存在するなかで、そうした人々のニーズに応え、社会参画に繋げていくにはどのようにすれば良いのか、地縁・血縁にとどまらない新たなつながりやコミュニティを創り出していくにはどのようなことが必要であるのか、愛知県生涯学習審議会で審議し、その結果を取りまとめた。

第1章 超高齢社会の現状について

【1 愛知県における高齢化の状況】

(1)本県全体の状況
平成24年に超高齢社会へ
(高齢化率21.3%)

超高齢社会:21%~
高齢社会 :14%~
高齢化社会: 7%~

(2) 地域別の高齢化の状況

- ・最も高い東三河地域の25.0%に対して、最も低い西三河地域は20.2%
- ・最も高い東栄町の49.8%に対して、最も低い長久手市は14.6%

【2 愛知県における地域活動の状況】

年齢とともに地域活動への参加経験は増加するが、50~59歳でいったん減少し(63.2%)、60~64歳で最も高くなっている(72.5%)

【3 高齢者の社会との関わり】

- ・就労に関する意識
「働けるうちはいつまでも」(25.1%)
- ・社会参加活動への意識
4人に3人が何らかの活動への参加意向

施策の実施に当たっては、地域が置かれている状況や地域間の格差などを考慮することが必要

定年を控えた世代に対する働きかけ、地域の一員としての立場に気づくような働きかけなどが必要

高齢者を上手に取り込んでいけるような社会の仕組みづくりが必要

第2章 超高齢社会における生涯学習の意義

【1 生涯学習の理念】 生涯学習とは、学校のみならず、家庭、社会などの様々な場や、文化・スポーツ活動、レクリエーション活動、ボランティア活動など様々な機会において行われる学習

【2 高齢者の特長】 ○長い人生経験による「豊かな経験と知恵」 ○定年等に伴う離職等の「喪失の経験」 ○自身の存在を確認するための「他者との関わり」

【3 超高齢社会における生涯学習の意義と期待される役割】

- 新たな生きがい、やりがいを得て、生き生きと人生の次のステージを過ごすこと(充実感の創出)
- 様々な活動により、健康が維持され介護予防にもつながること(健康の維持)

- 世代間の相互理解のため、異なる世代間の交流を促すこと(世代間交流の促進)
- 地域の課題解決に参加することにより、地域の活性化につながる(地域への貢献)

第3章 超高齢社会に対応した本県における取組

【1 充実感の創出や健康の維持に向けた取組】

- ・「学びネットあいち」の運営
- ・「愛知スポーツ・レクリエーションフェスティバル」の開催
- ・「あいちシルバーカレッジ」の開催 など

【2 世代間交流の促進や地域への貢献に向けた取組】

- ・シニア地域デビュー支援事業の実施
- ・生涯学習ボランティアの登録等 など

生涯学習の意義と期待される役割に係る取組

第5章 超高齢社会に対応した生涯学習の在り方

【提言1】

定年を迎える前から、高齢者自身が自らを地域社会が必要としていることに気付くための学習を推進すること

【提言2】

地域社会に新たな一歩を踏み出すための仕掛けをつくり、高齢者と団体やグループ等を橋渡しできる人材の養成を推進すること

【提言3】

超高齢社会のさらなる進行を見据えて、すべての世代が超高齢社会を正しく理解するための学習を推進すること

【提言4】

世代を超えて、多様な価値観や考え方に共感できるよう世代間の交流を推進すること

【提言5】

生涯学習のプラットフォームを構築し、世代間交流や地域社会への参画が促進される循環を創り出すこと
⇒ 別紙「連携・協働によって健康長寿と生涯学習を推進するあいちモデル」

第4章 県内の市町村等における先進的な取組

【1 世代間交流の促進に向けた取組】

- ・いきいきシルバースクールの開催(日進市)
- ・全市的な認知症サポーター養成講座の実施(みよし市)
- ・少年少女発明クラブの活動(企業) など

【2 地域への貢献に向けた取組】

- ・高齢者の生きがいづくり・生活支援活動人材育成事業の実施(山形県)
- ・思い出ふれあい事業の実施(北名古屋市) など

世代間交流や地域への貢献に係る特色ある事業展開

生涯学習に活かすべき視点